



市内各地でホタル祭り

ホタルの光と祭りを満喫

6月7日(土)、宗頭文化センターで三隅上地区ホタルまつりが開催されました。会場には焼き鳥などのバザーが出店し、多くの人が来場しました。辺りが暗くなると、樅の木橋周辺でホタルの観察会が行われ、来場者は幻想的なホタルの光を楽しみました。14日(土)には、JR 渋木駅周

辺で第6回蛍のふる里まつりが、俵山では頭振川砂防公園駐車場を会場に第13回手作り蛍祭りin俵山が行われました。両会場とも会場にバザーが出店。来場者は会場で飲食を楽しんだ後、それぞれ設定された鑑賞ポイントに移動して、ホタルの飛び交うようすを満喫していました。



▲タグを取ろうと相手選手を追いかける

第10回長門市タグラグビー祭

我がまちスポーツに親しむ

6月8日(日)、第10回長門市タグラグビー祭が俵山スタジアムで行われました。この大会は、ラグビーフットボールを長門市の「我がまちスポーツ」として定着させようと開催されたもので、小学生から一般の男女まで約300人が出場しました。タグラグビーはタックルを

せず、腰に付けたタグを取ることで相手チームの攻撃を防ぎます。このため危険性が低く、性別や年齢に関係なく楽しめるスポーツとして人気があります。試合は年齢や性別ごとに行われ、出場者は雨で濡れた芝生を駆け回ってパスをつなぎ、トライを決めていました。



▲ホタルの灯籠が出迎える三隅上地区ホタルまつり



▲JR 美祢線の活用も行われた渋木地区の蛍のふる里まつり



▲俵山では、インターンだった学生が社会人となって再び登場

大寧寺参道を観光スポットに

住民の力で散策路を整備

6月15日(日)、湯本温泉の大寧寺に向かう参道の清掃活動が行われ、地元住民ら約60人が参加しました。これは、大寧寺につながる参道を観光スポットとして整備し、観光客に散策を楽しんでもらおうと、長門商工会議所青年部清掃部会と湯本まちづくり協議

会が中心となって行ったものです。参加者は落ち葉や投げ捨てられたゴミを手で拾い集め、道路に伸びた草を草刈り機や鎌で刈りました。約1時間半で作業は終了。草やゴミが大量に集められ、参道はきれいになりました。



▲観光客に気持ちよく散策してもらえれば、と参加者

中央公民館で子どもお金講座

お金の上手な使い方を学ぶ

6月14日(土)、長門市中央公民館で、「子どもお金講座」が開催され、小学生約40人が参加しました。低学年と高学年に分かれて実施され、低学年の講座では、カレライスの材料を買う疑似体験をして、お金の使い方勉強しました。



▲おはじきを使って買い物を疑似体験

消火活動を補助し感謝状を授与

ジョギング中に消火協力

5月20日(火)、市役所市長室で消火活動に対する感謝状授与式が行われました。感謝状を受けたのは、市内の小中学校で外国語指導助手をしているクリストファ・オエン・ジェイコブスさんです。4月15日に仙崎大泊区をジョギング中に建物火災に遭

遇。ホースの整理などを行い、消火活動を補助しました。ジェイコブスさんは「出身のオーストラリアでは、6年間ボランティアで消防活動を行っていたので何をすべきか分かっていました。災害時に、人を助けたいと思う気持ちが一層強くなった」と話しました。



▲大西市長に当時の状況を語る

棚田を望めるカフェ開店

棚田かふえYOU家オープン

6月1日(日)、油谷東後畑に「棚田かふえYOU家」が開店しました。これは、NPO法人の地域美学研究所が運営する、空家を利用した地域交流施設で、ピザなども提供されるカフェとなっています。この日は関係者のほか地元住民約50人も集まり、オープンを祝いました。



▲営業は土・日曜日の11時～17時

長門市の文化を和太鼓の力で高めようと平成16年に市内4つの和太鼓グループが長門市和太鼓連盟を発足しました。

発足後、毎年開催している「ながと和太鼓フェスティバル」は10周年を迎え、7月21日(月・祝)にルネッサながとで記念公演が開催されます。

各団体の発表会形式で行われていた公演をみずゞ音頭を育てる会・青波で演出を担う村田さんが一新。団体の垣根を取り払い「長門の四季」という1つのテーマで舞台を作り上げ、長門市和太鼓連盟に新たな波を立てました。

「太鼓は生きていく上での楽しみであり、心の糧。この気持ちを多くの人に分けたい」と笑顔で語る村田さんは、和太鼓ワークショップを開催して、和太鼓の楽しさや演奏する達成感、日本の文化を広めています。

今回のテーマは長門偉人伝。「長門が生んだ偉人を通して長門の良さ、心意気を感じてほしい」力強く語る表情には自信がみなぎります。

良きライバルであり、同じ目標を持ち高め合える仲間とともに10周年という節目の舞台でどんなステージを見せてくれるのでしょうか。

思いの込められた力強いその音色は、私たちの心に響き渡ります。

村田 直美 むらた なおみ

昭和42年1月東京都生まれ、東深川駅前区在住。幼少より音楽が好きでピアノ教室に通う。短大在学時にリトミック指導員の免許を取得、保育士となる。平成15年にみずゞ音頭を育てる会・青波に加入し、作曲・演出・演奏をこなす。今まで作曲した曲は23曲。金子みすゞの詩と「青い海」のイメージを大切に楽曲作りを行っている。現在47歳。みずゞ音頭を育てる会・青波は、平成12年2月、みずゞ音頭を後世に残していこうと発足。毎週火曜日と木曜日に青海島共和国国内体育館で活動。年間10回程度舞台に立つ。団員は33人。



6月8日(日)、香月泰男美術館周辺のハーブ園を会場に、「みずみハーブを愉しむ日」が開催されました。
この日はあいにくの小雨でしたが、会場にはハーブグッズやハーブの苗、新鮮野菜の販売や、焼そばや焼き鳥などのバザーが出店しました。

ハーブ園ではさまざまな種類のハーブの花が咲き、ほのかな香りが漂いました。また20本100円のハーブの摘み取りが人気を集めました。
ハーブ園ではスケッチ大会も実施され、参加した児童は、色鉛筆でハーブの花を熱心にスケッチしていました。



▲小雨にも関わらず多くの人がハーブを愉しんだ

6月14日(土)、市内の2カ所の店頭で「ダメ。ゼッタイ。」国際麻薬乱用撲滅ヤングキャンペーンが行われました。
山口県薬物乱用防止推進員、国際ソロプチミスト長門などの団体と高校生約60人が参加、うちわなどを配り、薬物の乱用防止を訴えました。



▲高校生が積極的に取り組む

みずみハーブを愉しむ日 ハーブの香りに誘われて



▲避難所で行われた即席担架の作り方指導

6月1日(日)、渋木の大畑グランド周辺を会場に防災訓練が行われ、地区住民や市・消防関係者ら約250人が参加しました。
訓練は、大雨洪水警報の発表により渋木・真木地区に避難勧告が発令されたという想定で始まり、勧告を聞いた地区住民が大畑体育館へ避難。

市は避難所を大畑体育館に開設し、運営にあたりました。
大畑グランドでは、地元消防団と消防本部による土嚢を積み上げる訓練や車両救助救出訓練が行われました。
最後に、山口県消防防災ヘリコプター「きらら」により、取り残された住民の救助訓練が行われました。

渋木・真木地区で防災訓練 地域の防災力を高める

絶対に、手を出さないで 国際麻薬乱用撲滅ヤングキャンペーン

6月10日(火)、深川川にコブハクチョウが2羽飛来しました。コブハクチョウは、カモ目カモ科ハクチョウ属に分類される鳥類で、日本には本来分布していない外来種です。
2羽を発見した板持2区の伊勢本誼さんは「楽しそうに遊んでいるようだった」と話しました。



▲仲良く深川川に浮かぶコブハクチョウ

コブハクチョウが長門に飛来 深川川で優雅な姿を披露